

病害虫情報(第11号)3月予報

令和4年2月28日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333
ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

- I 3月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例 …………… 1
【カンキツ、ウメ、チャ、促成トマト、促成・半促成キュウリ、促成イチゴ、春キャベツ】
- II 3月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 …………… 7

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
- ※ 農薬に関する情報は、令和4年2月24日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 3月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例

【カンキツ】

| 病害虫名 | 発生予想 (平年比) | 防除要否 | 使用する薬剤例 ◆防除のポイント |
|-----------------|---------------|------|---|
| かいよう病 (中晩柑類) | — | ○ | (予) コサイド3000 [発芽前, -] 1,000倍 + クレフノン [-, -] 200倍 等 (予) ICボルドー66D [-, -] 25~200倍 ◆ ICボルドー66Dを発芽後に使用する場合は、アビオン-E1,000倍を加用する。また、マシン油乳剤との近接散布(2週間)は避ける。 |
| ミカンハダニ | やや多 | ○ | マシン油乳剤(97%, 98%) 等 ◆ 冬期に防除しなかった園は、春期に必ず防除する。 ◆ マシン油乳剤は商品によって使用基準が異なるので、ラベルの記載に従うこと。 |

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【ウメ】

| 病害虫名 | 発生予想 (平年比) | 防除要否 | 使用する薬剤例 ◆防除のポイント |
|--------|---------------|------|---|
| かいよう病 | — | ○ | (予) コサイド3000[硬核期まで, -] 2,000倍 + クレフノン [-, -] 200倍 等 ◆ 強風雨時に感染するので、降雨前の散布を心掛ける。 |
| 灰色かび病 | — | ○ | (予・治) ポリベリン水和剤[30日, 3回] 1,000倍 等 ☞ ポリベリンは混合剤。総使用回数に注意する。 ◆ 花びらが散り、萼(がく)が残っている落弁期に防除する。 |
| 灰星病 | — | ○ | ◆ 灰星病は花から感染し、枯れた枝が翌年の伝染源になる。枯れた枝は萌芽期から新梢展開期が発見しやすいので剪除する。 |
| アブラムシ類 | — | ○ | チェス顆粒水和剤 [21日, 2回] 5,000倍 スミチオン乳剤 [14日, 2回] 1,000~2,000倍 等 ◆ PPV(ウメ輪紋ウイルス)の感染が県内の一部の地域で確認されており、新たな感染を防ぐためにはアブラムシ類の防除が重要である。 |

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病虫害情報 (令和3年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

【チャ】

| 病虫害名 | 発生予想 (平年比) | 防除 要否 | 使用する薬剤例 ❖防除のポイント |
|---------|---------------|----------|--|
| もち病 | 並 | ○ | (予)ドイツボルドーA [14日,-] 500倍 (予)コサイド3000[14日,-] 1,000倍 等 ❖ 前年の多発園では必ず散布する。 |
| カンザワハダニ | やや多 | ○ | 【萌芽前】 オマイト乳剤 [14日,2回] 1,500～2,000倍 【開葉後】 バロックフロアブル [14日,1回] 1,000～3,000倍 ダニゲッターフロアブル [7日,1回] 2,000倍 等 ❖ 初期防除に重点をおく。 ❖ ダニゲッターは、覆下栽培では萌芽前に使用すること。 |

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和3年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成トマト】

| 病害虫名 | 発生予想 (平年比) | 防除要否 | 使用する薬剤例 ◆防除のポイント | | | | | | | | |
|---------------------------------|---------------|--------|---|-----------|--------|-------------|--------|---------------------------------|--------|---------------------------------|--------|
| 灰色かび病 | 並 | ○ | (予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 灰色かび病:10～15g/10a/日、うどんこ病: 15g/10a/日 | | | | | | | | |
| 葉かび病 | 並 | ○ | (予) セイビアーフロアブル20 [前日,3回] 灰色かび病:1,000～1,500倍 | | | | | | | | |
| うどんこ病 | — | ○ | (予・治) ポリオキシシンAL水和剤 灰色かび病、葉かび病 [前日,3回] 1,000倍 (予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 灰色かび病、葉かび病:2,000倍、 うどんこ病:2,000～4,000倍 | | | | | | | | |
| コナジラミ類 オンシツコナジラミ タバココナジラミ | やや少 並 | ○ ○ | ベストガード水溶剤 [前日,3回] 1,000～2,000倍 アニキ乳剤 [前日,3回] コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ :1,000～2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] コナジラミ類:300倍 | | | | | | | | |
| アザミウマ類 | 並 | ○ | ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除を徹底する。 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病) CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table> ◆ 施設開口部(出入口、天窗等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クロスレッド)はより高い防虫効果が期待できる。 ◆ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。 ◆ 黄色・青色粘着板を設置し、害虫の発生消長を把握する。 ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。 | 発生するウイルス病 | 媒介する害虫 | CMV等(モザイク病) | アブラムシ類 | TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病) | コナジラミ類 | TSWV(トマト黄化えそ病) CSNV(トマト茎えそ病) | アザミウマ類 |
| 発生するウイルス病 | 媒介する害虫 | | | | | | | | | | |
| CMV等(モザイク病) | アブラムシ類 | | | | | | | | | | |
| TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病) | コナジラミ類 | | | | | | | | | | |
| TSWV(トマト黄化えそ病) CSNV(トマト茎えそ病) | アザミウマ類 | | | | | | | | | | |

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

マルハナバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤:ベストガード(10日)、アニキ(1日)、ポリオキシシンAL(1日)

病害虫情報

(令和3年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成・半促成キュウリ】

| 病害虫名 | 発生予想 (平年比) | 防除要否 | 使用する薬剤例 ◆防除のポイント | | | | | | | | | | |
|---------------------------|---------------|------|--|-----------|--------|-------------|--------|-------------|--------|---------------|--------|---------------------------|--------|
| べと病 | 並 | ○ | (予) ダコニール1000 [前日,8回] 1,000倍 (予) ジマンダイセン 又は ペンコゼブ水和剤 [前日,3回] 600~800倍 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 (予・治) エトフィンフロアブル [前日,4回] 1000倍 等 ◆ 過湿になると多発する恐れがある。午後は換気に努める。 | | | | | | | | | | |
| うどんこ病 | やや少 | ○ | (予) ダコニール1000 [前日,8回] 1,000倍 (予) インプレッションクリア [発病前~発病初期,-] 1,000~2,000倍 (予) フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000~3,000倍 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 (予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等 ◆ 乾燥は発生を助長するので、過乾燥に注意する。 | | | | | | | | | | |
| アブラムシ類 | やや多 | ○ | スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、アザミウマ類:2,000~4,000倍 | | | | | | | | | | |
| コナジラミ類 | 並 | ○ | コナジラミ類:2,000倍 | | | | | | | | | | |
| オンシツコナジラミ | 並 | ○ | カスケード乳剤 [前日,4回] | | | | | | | | | | |
| タバココナジラミ | 並 | ○ | ミナミキイロアザミウマ:2,000~4,000倍 | | | | | | | | | | |
| アザミウマ類 | 並 | ○ | チェス顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:5,000倍 | | | | | | | | | | |
| ミナミキイロ | 並 | ○ | ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000~2,000倍 | | | | | | | | | | |
| アザミウマ | 並 | ○ | ボタニガードES [発生初期,-] アザミウマ類:500~1,000倍 | | | | | | | | | | |
| ミカンキイロ | 並 | ○ | アブラムシ類:1,000倍、コナジラミ類:500倍 等 | | | | | | | | | | |
| アザミウマ | 並 | ○ | ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除を徹底する。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(退緑黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table> ◆ 施設内外の除草を徹底するとともに、栽培に関係のない鉢物等を施設内に持ち込まない。 ◆ 害虫の発生確認や防除のため黄色粘着板や粘着テープの吊下げも効果的。なお、アザミウマ類には青色粘着板を使用する。 | 発生するウイルス病 | 媒介する害虫 | CMV等(モザイク病) | アブラムシ類 | CCYV(退緑黄化病) | コナジラミ類 | BPYV(キュウリ黄化病) | コナジラミ類 | MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病) | アザミウマ類 |
| 発生するウイルス病 | 媒介する害虫 | | | | | | | | | | | | |
| CMV等(モザイク病) | アブラムシ類 | | | | | | | | | | | | |
| CCYV(退緑黄化病) | コナジラミ類 | | | | | | | | | | | | |
| BPYV(キュウリ黄化病) | コナジラミ類 | | | | | | | | | | | | |
| MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病) | アザミウマ類 | | | | | | | | | | | | |

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和3年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成イチゴ】

| 病害虫名 | 発生予想 (平年比) | 防除要否 | 使用する薬剤例 ◆防除のポイント |
|---------------------------------|---------------|--------|--|
| 灰色かび病 | 並 | ○ | (予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 10～15g/10a/日 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予・治) ピクシオDF [前日, 4回] 2,000倍 ◆ 発病部位を速やかに取り除き、施設外で適切に処分する。 |
| うどんこ病 | 並 | ○ | (予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 15g/10a/日 (予) タフパール [発病前～発病初期, -] 2,000～4,000倍 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予・治) プロパティフロアブル [前日, 3回] 3,000～4,000倍 (治) カリグリーン [前日, -] 800～1,000倍 (治) エコピタ液剤 [前日, -] 100倍 ◆ 発病部位を速やかに取り除き、施設外で適切に処分する。 ◆ 窒素過多や草勢低下のときに多発しやすいので、適正な肥培管理を行う。 |
| アブラムシ類 | 並 | ○ | バリアード顆粒水和剤 [前日, 3回] アブラムシ類: 2,000～4,000倍、コナジラミ類: 2,000倍 |
| コナジラミ類 オンシツコナジラミ タバココナジラミ | 並多 | ○ ○ | チェス顆粒水和剤 [前日, 3回] 5,000倍 エコピタ液剤 [前日, -] 100倍 粘着くん液剤 [前日, -] 100倍 ボタニガード水和剤 [発生初期, -] 1,000倍 等 |
| アザミウマ類 | 並 | ○ | スピノエース顆粒水和剤 [前日, 2回] 5,000倍 ファインセーブフロアブル [前日, 3回] 1,000～2,000倍 ボタニガード水和剤 [発生初期, -] 1,000倍 等 |
| ハダニ類 | やや多 | ○ | ダニサラバフロアブル [前日, 2回] 1,000倍 エコピタ液剤 [前日, -] 100倍 粘着くん液剤 [前日, -] 100倍 等 |

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

ミツバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤: ファインセーブ(1日)、スピノエース(2日)

タフパールと上記掲載剤の混用事例および散布間隔(メーカー技術資料より抜粋)

- ▶ ボトキラー、バリアード、チェス(水和剤)、粘着くん、スピノエース、ボタニガード(ES)、ダニサラバ: 混用事例あり
カリグリーン: 3日以上
(参考) 展着剤アグラール、ダイコート、ニーズ: 1日以上

病害虫情報 (令和3年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

【春キャベツ】

| 病害虫名 | 発生 予想 (平年比) | 防除 要否 | 使用する薬剤例 ❖防除のポイント |
|----------------------------------|-------------------|----------|---|
| 灰色かび病 【三浦半島地区】 【横浜・藤沢地区】 | 並 — | ○ | (予) セイビアーフロアブル20 [3日,3回] 菌核病: 1,000倍 (予・治) ロブラール水和剤 [7日,4回] 菌核病:1,000倍 (予・治) ファンタジスタ顆粒水和剤 [3日,3回] 2,000~3,000倍 |
| 菌核病 【三浦半島地区】 【横浜・藤沢地区】 | やや少 やや少 | ○ | ❖ 菌核病は、株元まで薬液が届くように早い時期からの予防に努め、発病株は早期にほ場外で処分する。 ❖ 灰色かび病の発病部位は、見つけ次第除去する。 |
| コナガ 【三浦半島地区】 【横浜・藤沢地区】 | 並 並 | ○ | アニキ乳剤 [3日,3回] コナガ: 1,000~2,000倍 エスマルクDF [発生初期(但し,前日),—] コナガ:1,000~2,000倍、ネギアザミウマ:1,000倍 プリンスフロアブル[14日,2回] 2,000倍 |
| ネギアザミウマ 【三浦半島地区】 【横浜・藤沢地区】 | — — | ○ | 等 |

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和3年度・第11号・3月) …… 神奈川県農業技術センター

II 3月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 3月の気象予報(気象庁 2月25日発表3か月予報)

〈天 気〉

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

| | 低い(少ない) | 平年並み | 高い(多い) |
|-------|---------|------|--------|
| 気 温 | 20% | 40% | 40% |
| 降 水 量 | 40% | 30% | 30% |
| 日照時間※ | 30% | 30% | 40% |

※日照時間は2月24日発表1ヶ月予報による

(2) 3月の病害虫発生予報の根拠

| 作物名 | 病害虫名 | 発生量 | | 予報の根拠 |
|-------|-----------|-----|-----|--|
| | | 程度 | 平年比 | |
| カンキツ | ミカンハダニ | 少 | やや多 | 1) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(+) |
| チャ | もち病 | 少 | 並 | 1) 前年9月の巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 前年10月の県予察ほ(寸沢嵐)調査では、発病は見られず、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(±) |
| | カンザワハダニ | 少 | やや多 | 1) 前年10月の巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 前年10月の県予察ほ(寸沢嵐)調査では、寄生は見られず、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(+) |
| 促成トマト | 灰色かび病 | 少 | 並 | 1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(±) |
| | 葉かび病 | 少 | 並 | 1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(±) |
| | オンシツコナジラミ | 少 | やや少 | 1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(+) |
| | タバココナジラミ | 少 | 並 | 1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(+) |
| | アザミウマ類 | 少 | 並 | 1) 巡回調査では、被害は見られず、発生が平年並(±)。 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(+) |

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(令和3年度・第11号・3月) …… 神奈川県農業技術センター

| 作物名 | 病害虫名 | 発生量 | | 予報の根拠 |
|------------|-------------|-----|-----|---|
| | | 程度 | 平年比 | |
| 促成・半促成キュウリ | べと病 | 少 | 並 | 1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(±) |
| | うどんこ病 | 少 | やや少 | 1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(±) |
| | アブラムシ類 | 少 | やや多 | 1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋) |
| | オンシツコナジラミ | 少 | 並 | 1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋) |
| | タバココナジラミ | 少 | 並 | 1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋) |
| | ミナミキイロアザミウマ | 少 | 並 | 1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋) |
| | ミカンキイロアザミウマ | 少 | 並 | 1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋) |

病害虫情報

(令和3年度・第11号・3月) …… 神奈川県農業技術センター

| 作物名 | 病害虫名 | 発生量 | | 予報の根拠 |
|-------|-----------|-----|-----|--|
| | | 程度 | 平年比 | |
| 促成イチゴ | 灰色かび病 | 少 | 並 | 1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(±) |
| | うどんこ病 | 少 | 並 | 1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(±) |
| | アブラムシ類 | 少 | 並 | 1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋) |
| | オンシツコナジラミ | 少 | 並 | 1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋) |
| | タバココナジラミ | 少 | 多 | 1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋) |
| | アザミウマ類 | 少 | 並 | 1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋) |
| | ハダニ類 | 少 | やや多 | 1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋) |

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(令和3年度・第11号・3月) …… 神奈川県農業技術センター

| 作物名 | 病害虫名 | 発生量 | | 予報の根拠 |
|------------------------|-------|-----|-----|--|
| | | 程度 | 平年比 | |
| 春キャベツ (横浜・藤沢 地区) | 菌核病 | — | やや少 | 1) 昨年11月の秋冬キャベツでの巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(－) |
| | コナガ | — | 並 | 1) 横浜のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋) |
| 春キャベツ (三浦半島 地区) | 灰色かび病 | 少 | 並 | 1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(－) |
| | 菌核病 | 少 | やや少 | 1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(－) |
| | コナガ | 少 | 並 | 1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 三浦のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 3) 県予察ほ(三浦)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少ない。(－) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より少ない予報。(＋) |

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロベリー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回